

令和4年度  
学校だより

令和4年  
12月2日

# しおかぜ

佐渡市立  
高千小学校

「思いやりと信念をもって根張れる子」を実現を目指す学校

No. 9

## サッカーワールドカップ「日本対スペイン」戦に学ぶ

校長 白澤 道夫

「師走」の12月に入りました。これからの1ヶ月間は、様々なことで「今年最後の」が常套句になる程、時間を強く意識し、慌ただしい日々を過ごすこととなります。

さて、先日の全校・生活朝会では、子どもたちに「4月と比べて、自分ができるようになったこと」を考え、発表してもらいました。それぞれの学年で「〇〇することができるようになりました。」等々、堂々と発表する子どもたちの姿を見ながら、「言葉力」が身に付いてきていることを実感しました。（中には「国語力が身に付きました。」と発表する子どもがいて、職員一同感動していました。）

「何かができるようになること」は、確かな自信につながります。同時に自分を好きになる（広い意味での自己肯定感）ことにもつながります。

本日、早朝からサッカーのワールドカップ「日本対スペイン」戦を視聴しました。前半の守備的な展開から、後半開始直後の攻撃的な展開の「差」に勝機があったと感じました。（結果論かもしれませんが）本日の勝利は、日本チームの「自己肯定感」の強さが出たのだと考えています。

本来、自己肯定感とは「何があっても大丈夫」という言葉に置き換えられると考えます。

今大会、ここまで日本チームは1勝1敗でした。勝利したドイツ戦ではマスコミ等大絶賛されましたが、コスタリカ戦では酷評（個人批判まで出ていました。）されました。

そして迎えた本日、相手は強豪国のスペイン。

前半、早くも1点を失う展開に、敗戦の二文字が浮かんだのは私だけではないでしょう。しかし後半、開始5分程度の「あっという間」に2点を取り、その後は堅守で勝ちきりました。これまで見たことがない日本チームの勝利に衝撃を受けました。感動しました。

長年、バスケットボールのコーチをさせていただいていた経験上、運動における勝敗は、実力の差だと断言できます。しかし、ご承知のとおり、その実力は「技量」だけではありません。「メンタル」も含まれるのです。

先述したように日本チームは、大絶賛と酷評を受けながらも「変わらぬ」プレーをし続けています。それは、長い期間積み重ねてきた練習の量と質、そしてチーム内における「共に戦う」信頼関係にあるように思います。

「技量」の差は「メンタル」でカバーできる。これも経験上、断言できます。そして、強固な信頼関係は、各選手の自己肯定感を高め、揺るぎない自信となっていた。スペイン戦は、まさに「何があっても大丈夫」を体現した試合だったのではないのでしょうか。

日本はチーム結成の4年前から今まで、多くの賞賛や批判を受けながら、個人として、またチームとして「何かができるようになること」を地道に積み重ねてきたと思います。

当校では、子どもたちが話してくれた「できるようになったこと」が、これからも増え続け、自己肯定感を一層高めていけるよう、職員一同、努力を積み重ねていきます。

いずれ訪れる、子どもたちが培った実力を発揮する「その日、その時」のために。